

会議名	第4回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会（有識者）
開催日時	令和6年8月27日（火）18時～19時30分
開催場所	港区役所 9階 914会議室
委員	<p>(出席者)</p> <p>文教大学人間科学部人間科学科准教授 青山 鉄兵 港区青少年委員会会長 芝 耕太郎 公益社団法人東京青年会議所港区委員会副委員長 橋本 悅臣 認定NPO法人3keys代表理事 森山 誉恵 子ども家庭支援部長 中島 博子</p> <p>(欠席者)</p> <p>公益財団法人児童育成協会健全育成事業部部長 佐野 真一 都立六本木高等学校教員 吉谷 健也</p>
事務局	子ども家庭支援部子ども若者支援課 特定非営利活動法人 こども哲学・おとな哲学 アーダコーダ
会議次第	<p><開会></p> <p>1 第4回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会（高校生世代）の報告 2 高校生世代の居場所ビジョンのテーマについて 3 一人で過ごせる居場所づくり事業について 4 事務局からの連絡事項</p> <p><閉会></p>
配付資料	<p>資料1 高校生世代の居場所ビジョンのテーマについて 資料2 一人で過ごせる居場所「設備・機能イメージ」</p> <p>参考資料 1 第4回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会（高校生世代）議事録</p>
会議の結果及び主要な発言	
委員長	<p><開会></p> <p>1 第4回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会（高校生世代）の報告</p> <p>本会議に先立ち、8月2日に高校生世代委員による検討委員会が開催された。検討内容は、本日の各議題の資料説明で、事務局から補足する。会議の概要及び視察について事務局から報告する。</p>
事務局	<p>8月2日は、4名出席予定のうち1名が欠席となり3名で実施したが、多様な意見が出た。各議題で逐次報告する。視察は、3名の委員及びコーディネーター2名が参加した。参加した委員からは想像していた居場所に近いという意見や、熱帯魚などの有機的な動きが室内にある方が良いのではないか、という提案をいただいた。</p>
委員長	<p>以上について、質問や意見はあるか。 (意見なし)</p>
委員長	では、次の議題に移る。

	2 高校生世代の居場所ビジョンのテーマについて 事務局から、資料説明と併せて高校生世代委員の意見を紹介する。 (資料説明) ビジョンのテーマは、有識者の委員からもご提案をいただいた。基本的にはどちらの案がよろしいか、意見をいただきたい。各委員から意見があれば、お願いしたい。 どのような意図でテーマがあるのか。再度確認したい。 行政施策としては、テーマよりも柱となるミッションの方が反映されやすい。テーマは必要な要素が抜けなければよい。
委員長 事務局 委員長	
委員D 委員長	
委員D 委員長 委員A 委員長 委員B	理解した。 注釈をつけて、自然体をあえて入れる案は良いと思うがいかがか。 どういう注釈をいれる予定か。 自然体という言葉を選んだ経過を記載してはどうか。 区は、テーマのサブタイトルや計画のリード文で表記を補足することがある。 検討委員会の意見を尊重した経緯を記載したい。 注釈は、テーマ全体に対してか、自然体の言葉に限るのか。事務局の考えはいかがか。 検討委員会の議論が伝わるよう、全体が良いと考えている。
委員長	「いつでも」等の選ばなかった言葉を使わない理由を書いても良い。検討が意味のあるものになる。欠席した委員や高校世代委員に対してのフィードバックはどのようにするか。
事務局 委員長	高校生世代委員と有識者が参集する第6回検討委員会でご報告する。 承知した。では、次の議題に移る。
委員長 事務局 委員長 委員D	3 一人で過ごせる居場所づくり事業について 事務局から、資料説明と併せて高校生世代委員の意見を紹介する。 (資料説明) 高校生からのイメージを踏まえて、各委員から意見があればお願いしたい。 自分達の団体が居場所を整備する際に、当事者の意見を想像して議論した内容が出ている。 視察では、利用者層や利用形態が印象的だった。スタバのフラペチーノを購入するために節約したいなど、貧困家庭やケアが必要な重いケースの子どもが利用していると想像していたが、少し異なった。
委員A	高校生世代の周りが当たり前に持っている、買っているものなのに自分は買えないというもので、ぜいたく品を買いたいというニーズではない。みんなが当たり前に購入しているものを、自分は切り詰めて、切り詰めて購入しているという現状がある。
委員D	つまり、見た目からは見えない貧困ということか。 そのような認識と改める。
委員長 委員A 委員D	自身の悩みを相談することで、親からの暴力や児相や警察とのトラブルを経験している子もいる。相談したくない子ほど、相談のニーズが高い場合がある。思春期の不安定な成長時期に、自尊心を踏みにじらないでどのように支えていくかが難しい。
委員E	どのような利用者を想像することがこの事業のゴールに近いか。ハードルの高い子の利用をじっくり待つか、ターゲットを決めて声掛けしていくのか。ハードルの高い子には事前に説明が必要だと考える。
委員D	困窮度合いに関わらず、非交流型を利用したいときのニーズは似たものがある。気持ちが沈んだ時、だれかと過ごすことを避けたい時で、困窮度合いによってニーズは変わらないけど、頻度が変わるというイメージ。そういう状態に来られる場所として保障すれば良いのではないか。場所が狭いと、恒常に来るヘビ

	一ユーザーの子に限定され、そうすると他の子どもはきづらくなるので、一定の広さは必要だろう。
委員A	すごく広い施設ではない場合は、絶妙なターゲティングになる。
委員B	委員Dの施設を視察して、様々な属性の利用者が、交流しなくとも同世代を視認により共感性のある空間であることが、居場所づくりで必要だと感じた。
委員E	高校生世代の意見では、相談することをマイナスに捉えている印象である。
委員長	相談自体の有効性ではなく、相談していることが見られたくないという意図かもしれない。
委員A	行政が運営するため、民間施設よりも居場所の門戸が叩きやすくなる点にも留意が必要だと考える。
委員D	行政が運営することはハードルの低さだけでなく高さにもなりえる。行政が運営すると困っている子にとっては利用しづらく、そこまで困っていない親が「税金払っているんだからただで食べてきなさい」という権利意識の高い中間層以上の家庭が利用する可能性が高まる。広報が制限できるか否かによるが、居場所の空間に「いびつき」を作る必要がある。それがないと、施設の利用形態が中高生プラザに近づいてしまう懸念がある。
委員A	相談する場所と思えば、相談しない人は来なくなってしまうか。
委員D	むしろ逆で、肯定感の高い人ほど、相談しやすいというエビデンスが出ている。食事については、子ども食堂等の広報で「支援」のイメージがついていることから、高校生世代は警戒するワードになっている印象がある。なので、広報で食事はあまり積極的には触れていない。
委員長	まずは、誰でも来られる一人でいられる居場所の議論として、必要な機能が提供できる居場所。相談も、つなぐこともできる。どのように居場所につながるかのイメージがまだ出来ていない。元々は、家庭や学校に居場所が無い高校生世代向け、家庭で居場所が無い場合は生活をサポートでき、一人で居られる空間が中心ではないか。今日は、施設の広さなどの要件は意識せずに、意見を出す時間としたい。
事務局	進行の補足であるが、利用対象に関しては、どのような人も一人になりたい時間はある。不安定な時、一人でいられる居場所を提供したい。本日は、有識者会からも自由に機能や要件の意見をいただき、次回の高校生世代委員の検討会議で、出てきた意見の中から必須のもの、あればいいもの、を高校生世代委員に選択してもらう。
委員D	高校生世代委員からいただいた動物は、自分達も本当は導入したかった。結果として、施設にぬいぐるみを設置したが想像以上に人気がある。自分の施設には全く交流がないため、何か自分を投影する先や交流の物足りなさを補完しているではないか。
委員E	要件の議論として、必要とされるファシリティは、利用者で開きがある。狭い制限された空間の方が安心するか、広い空間に居場所を作れる方が良いか。
委員D	自分の施設では空間の隅が人気。あとは、段差を設けて視線を合わないようするゾーニング。学校では明るい子が落ち込んでいる際に利用するときは、真ん中にいるなど、選択肢を設けることが重要。周りが反応しないことをルールとして徹底していれば、どう過ごそうが自由だと考える。
委員A	ファシリティは最大公約数で確立しなければいけないだろう。好みに特化すると取り合いにならないか。個性の在り過ぎは注意した方が良い。
委員長	高校生世代には、個室の意見もあったが、有識者の意見はどうか。
委員A	個室にするか半個室にするかは、施設の家庭的な印象にも影響があるかもしれない。
委員E	漫画喫茶のような半個室のイメージは落ち着くのではないか。
委員D	多感な時期もあり、個室や半個室などの死角は、防犯カメラが必要になる。防犯カメラを設置すると、逆に利用しづらくなるだろう。

委員長	かつて、ネットカフェ難民という言葉あったように、漫画喫茶等が避難的な居場所機能として一時的に支えた時代もあったのかもしれないが、今回の居場所では個室の在り方は留意が必要である。
委員D 委員長 事務局	利用者は未成年なので、安全の確保は管理者の役割ではないか。 事務局の想定では、利用者情報はどこまで必要か。 安全確保のために、最低限の氏名や住所は必要である。事業の評価や今後の展望として、在学者なのか、区との関係性は欲しい。
委員D	高校生世代委員から出ている料理できる機能は、刃物や火を扱うので管理が難しい。料理の出来る子と出来ない子の差や、実際に利用者から「何か手伝わないといけないのか」という質問があり、自分の施設でも保留している。
委員長	調理という意見よりも、インスタントやコンビニ弁当を食べられる程度の調理の方がニーズに近くないか。
委員D	自分の施設では、冷蔵庫や電子レンジを利用する際は、あえてスタッフに声を掛けるように運用している。何も会話のきっかけが無いと相談しやすい距離感に発展しにくい。
委員D	施設の運営時間を延ばして欲しいという意見もあるが、青少年保護条例の関係や、未成年を泊めるためには、保護者が児相との連携が必要になるため、24時間は難しい。
委員A	入所施設とは違うので、家庭が落ち着いたころに帰られる時間設定が良いが、区が運営すると24時間対応可能なのか。
委員B 委員E 委員長	児相関係になるので、現実的には難しいだろう。 そのニーズは、家に帰りたくないという意見なのだろう。 他にも、高校生世代委員の検討会議では、医療的な意見も出ていたが、ユースクリニックのような機能は良いと思う。どのように提供できるのかが課題。この場所自体に機能を持たせなくても良いかもしれないが。
事務局	専門医を常駐させることは難しいかもしれないが、つなぐことはできる。また、ユースクリニックは、性の問題だけでなく、タバコやお酒などの自分の身体に関する悩みを受けられることも重要だと考えている。
委員A	施設の機能としなくても良いのは。むしろ福祉的要素が強くなり、利用者が遠のくことが懸念される。
委員D 委員長	ユースクリニックは、むしろ交流型で実装する方が効果的ではないか。 先日、名古屋にある色々な機能が複合的にある施設を視察したが、LINE相談のようにオンラインで相談できる機能も良いかもしれない。
委員B 委員A 委員D	港区でもLINE相談を実施しているが、中高生の利用は少ない。 委員Dの施設は医療につなげるのか。
委員A 委員D	未成年への支援は、保護するかしないか、実は、子どもが直接支援を受けられる居場所は少ない。医療につなげることも、「自分たちに手が追えない」ことが相手に伝わるので、利用者との関係が断絶するリスクがある。「ここに居て良い」という居場所を徹底している。未成年の問題は、最終的には保護者が児相に関わらざるを得なくなる。
委員長	つながない場合は妊娠の問題などはどうのに対応するのか。 妊娠した場合は、それまでに信頼関係が構築されていなければ、そもそもどの施設自体も利用しなくなる可能性がある。そのあたりは非常に難しい問題になる。
委員D	多様性に配慮されている施設を意識する必要がある。自習室のような機能は人気だが、代替施設がある中で、自習が出来る施設というと利用者のレンジが広がる。だが、施設に「つながるきっかけ」にはなる。 どのように居場所を対象に認知してもらえるのか。きっかけとしては自習室等の利用層の厚い機能はあっても良いかもしれない。18歳以下をターゲティングする広告が運営上難しくなってきている。学校では、知り合いが利用しているリス

	クを感じるので周知しにくい。
委員長	あえて居場所の利用しやすさは広く構えて、認知してもらい、結果として運用でニーズのある子が一人でいられる施設になるのはどうか。
委員D	生活のサポートがあるいびつきは残るけれども、図書館、カフェ、ネット、ランドリーなど色々な機能があり、高校生世代は無料で、一人でいることが条件とする。そこから、居場所の提供という支援につながるきっかけのある施設。
委員長	私たちは、本当に居場所が必要な高校生世代のために検討を始めたが、そこにつなげるためには、自習室やカフェなど、ある程度広く当事者が認知する仕組みが必要である。そういう場があることは権利保障につながる。
委員D	フロアを分けないで、図書室とランドリーが混ざるような違和感が自然と共存している空間でも良いかもしれない。
委員長	議論を深めることで、オープンな居場所の空間イメージになってきた。
委員A	相談室などは、機能はあるけど、場所の概念を設けない空間でも良い。リスクとして、利用者が増える程、知り合いに会う可能性が高まる。いつもいると、学校や家に居たくない人と思われないか。
委員B	利用者に応じた広さの目安はいかがか。
委員D	広さが無いと利用者は狭く感じて帰り始める。
委員長	検討委員会の欠席者にも、高校生世代の委員や本日の議論を共有して、意見をいただきたい。
委員D	こういった議論のペースが欲しい。
事務局	ペース作成については準備したい。
委員長	他の居場所施設のイメージを掴むために、参考資料であった方が良いかもしれない。
事務局	参考施設として準備する場合は、施設などを委員長に相談する。
委員長	他に意見が無ければ、本日の議論はここまでとする。
委員長	4 一人で過ごせる居場所づくり事業について 最後に、事務連絡を事務局から説明する。 ①第5回検討委員会（高校生世代） 9月25日（水）を予定している。 ②第5回検討委員会（有識者） 10月中・下旬で調整 他になれば、第4回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会を閉会する。遅くまで、活発な議論をいただき、感謝する。
事務局	<閉会>